



令和 3 年度 (2021 年度)

滋賀大学
教職大学院

大学院教育学研究科 / 高度教職実践専攻

2021 SHIGA UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF EDUCATION

目次

1. 受験生の皆様へ
2. 教職大学院の基本理念と4つの改革方針
3. 教育学研究科の設置の趣旨と沿革
4. 教職大学院の目指す人材像
5. 教職大学院の3つのポリシー
6. コース紹介
7. 教育課程と科目一覧
8. 実習科目の学修イメージと実習科目一覧
9. 4つのコースの学修イメージ
10. 教員スタッフ一覧
11. 在学生インタビューと学生生活の一コマ
12. 修了生メッセージ
13. 教育実践課題解決研究報告書題目一覧
14. 主な学生支援の制度
15. 大学院説明会とアクセスマップ

受験生の皆様へ

高度な専門性を備え、地域の期待に応えることのできる教員を育てます

滋賀大学大学院教育学研究科長 神 直 人

滋賀大学教職大学院（滋賀大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻）は、平成 29 年 4 月に、学校経営力開発コースと教育実践力開発コースの 2 コースでスタートしました。これまでの 3 年余りの貴重な経験をもとに、令和 3 年 4 月からは新たな 2 コース、授業実践力開発コースとダイバーシティ教育力開発コース、を加えて 4 コース体制で高度な専門性を備え、地域の期待に応えることのできる教員を育てます。今回の教職大学院の拡充は、次の 4 つの方針に基づきます。

- ① データサイエンス教育の導入
- ② 確実な教科の指導力を備えた教員の養成
- ③ 地域の多様な教育的ニーズ（ダイバーシティ）に対応できる教員の養成
- ④ 教員のキャリアステージに対応した資質・能力の育成と養成する教員像の明確化

新コースのうち授業実践力開発コースは、②の実現のために設置され、もう 1 つのダイバーシティ教育力開発コースは、③の子どもの障害、いじめ・不登校、外国人児童生徒、幼小連携などの多様なニーズに対応するために設置されています。

新たなスタートを切った滋賀大学教職大学院で高度な専門性を備えた教員を目指しましょう。意欲あふれる多くの方の入学をお待ちしています。

地域の子どもたちの学ぶ力の向上をめざして、教師力を高度化します

高度教職実践専攻長 岸 本 実

本学教職大学院（高度教職実践専攻）は、滋賀県教育委員会、滋賀県の市町教育委員会、滋賀県総合教育センター、教育学部附属学校園、地域の連携協力校と、協力・協働して、教員のキャリアステージに対応して教師力を高度化していきます。主に学部新卒学生は、確かな教科指導力、学級経営力、そしてダイバーシティ教育力を修得し、現職教員学生はさらに、高度な教育実践力および学校経営力を修得するカリキュラムを準備しました。共通科目、コース科目、実習科目、課題解決研究科目など理論と実践を往還した学びを通して、そして、仲間との協働を通して、自らの教師力を省察し、共に成長していきましょう。私たちの教師力を高度化した先には、時代が求める地域の子どもたちの学ぶ力の向上があります。この思いを一つに共に学ぶ意欲を持つ方の入学を期待しています。

教職大学院の基本理念と4つの改革方針



教職大学院の基本理念

社会の変化や諸課題に対応しうる高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員が求められています。このため、教員養成教育の改善・充実を図るべく、高度専門職業人養成としての教員養成に特化した専門職大学院としての枠組み、すなわち「教職大学院」制度が創設されました。

教職大学院は、次の二つを主な目的・機能としています。

- 現職教員を対象に、地域や学校において指導的役割を果たすことのできる、確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダー（中核的中堅教員）を養成します。
- 学部で教員として必要な資質・能力を習得した者を対象に、さらにより確かな実践的指導力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新任教員を養成します。

4つの改革方針

このように社会の変化や諸課題に対応しうる高度な専門性を備えた力量ある教員の養成という基本理念を踏襲しつつ、次の4つの改革方針により、滋賀大学教職大学院を充実・発展していきます。

①データサイエンス教育の導入

将来予測が難しい社会において、適切な情報の活用による子どもの主体的な価値創造の能力を育成するためには、教師自身がデータを読み解き利活用する能力、すなわちデータサイエンスの基礎的な力を身に付けることが求められます。また、日々の教科指導や学級経営などの教育実践を、エビデンスに基づいたアプローチによって振り返り、改善していくことがこれからの教師には必要です。そこで、データサイエンス教育の拠点大学としての滋賀大学の強みを活かし、データサイエンス基礎力を基盤的能力として教育課程に位置付けています。

②確実な教科の指導力を備えた教員の養成

新設の「授業実践力開発コース」では、教科の専門性や高度な教材開発力・指導力等を確実に身につけた新任教員を養成します。教科指導力、教材開発力、授業実践力の向上を目指す科目は、コース間連携科目として、すべてのコースの学生も履修可能として設定されています。

③地域の多様な教育的ニーズ（ダイバーシティ）に対応できる教員の養成

新設の「ダイバーシティ教育力開発コース」では、障害、いじめ・不登校。外国人児童生徒、幼小連携等、多様な教育的ニーズに対応できる高度な専門性を身につけ、その専門性を活かして学校教育に貢献する教員を養成します。

④教員のキャリアステージに対応した資質・能力の育成と養成する教員像の明確化

高度専門職業人としての教職生活全体を支える観点から、学部新卒学生および現職教員学生のそれぞれのキャリアステージに応じて必要な資質・能力を育成するコース編成とします。滋賀県の「人材育成指標」との対応関係も重視します。学部新卒学生を主な対象とした上記新設コースは、準備ステージから第Ⅰステージ（実践力形成期）の教科・学級担当としての実践力を備えた新任教員を養成します。教育実践力開発コースでは、第Ⅱステージ（成熟発展期）に求められる学校、地域、学年、分掌等におけるミドルリーダーとしての資質・能力を育成します。学校経営力開発コースでは、単位学校を超えた視野を備え、地域レベルで学校改善をけん引できる教育行政職を含めたトップリーダーとしての資質・能力を育成します。

— 教育学研究科の設置の趣旨と沿革 —

1. 教育学研究科の設置目的と趣旨

本学大学院教育学研究科は、学部における教養的並びに専門的教育の基礎の上に、時代の進展に対応できる教員としての専門的学識及び実践的能力を育成すること、並びに現職教員の専門的機能のいっそうの向上を図ることを目的とし、教育現場や地域社会に開かれた大学院として、平成3年4月に設置されました。以来今日まで、一貫して滋賀県を中心に学校教育を担う人材を輩出してきました。常に地域の教育の中核的機関として、附属学校園はもとより地域の学校園との連携のもとに、実践的指導力の養成に力を注いでいます。

平成29年度には、新たに高度教職実践専攻（教職大学院）を設置し、学校や地域における教育課題を解決することができる実践的な教員の養成・研修を行います。再編された学校教育専攻（修士課程）においては、高度に専門的な教育的素養と実践的能力を兼ね備えた教育人の育成を行います。令和3年4月には、学校教育専攻（修士課程）を高度教職実践専攻（教職大学院）に統合・拡充し、社会の変化や諸課題に対応しうる高度な専門性を備えた力量ある教員の養成という基本理念に沿って、本学の強み・特色を明確に打ち出し、発展させます。

我が国の学校教育は大きな転換期を迎えていることから、学校及び教師への期待はこれまで以上に大きくなっており、学校を取り巻く状況の様々な変化に対応し、よりよい教育を自ら作り出していこうとする教育人の育成が急務となっています。そうした教育人の育成を実現するために、本研究科では、理論と実践の往還、少人数でのきめの細かい指導を重視しています。また、これからの教師にはますます必要となる広い視野を育むために、高度に専門的であり、かつ学際的なディスカッションの場を教育研究の様々な場面に設け、我が国の21世紀を担う教育人の育成に力を入れています。

2. 教育学研究科の沿革

平成3年4月滋賀大学大学院教育学研究科の設置

- ・学校教育専攻学校教育専修
- ・障害児教育専攻障害児教育専修
- ・教科教育専攻

国語教育専修・社会科教育専修・理科教育専修・美術教育専修・英語教育専修

平成5年4月教科教育専攻の整備（全専修完成）

数学教育専修・音楽教育専修・保健体育専修・技術教育専修・家政教育専修

平成13年4月学校教育専攻・障害児教育専攻の拡充

学校教育専攻に情報教育専修と環境教育専修を設置

学校教育専攻・障害児教育専攻の入学定員増

平成14年4月教科教育専攻の入学定員増

平成29年4月高度教職実践専攻新設・3専攻の統合

高度教職実践専攻（教職大学院）の新設

学校教育専攻・障害児教育専攻・教科教育専攻を学校教育専攻に統合

令和3年4月学校教育専攻（修士課程）を高度教職実践専攻（教職大学院）に統合・拡充

高度教職実践専攻に授業実践力開発コース・ダイバーシティ教育力開発コースを新設

学校教育専攻を高度教職実践専攻に統合

— 教職大学院の目指す人材像 —

本専攻の目指す人材像は、次の通りであり、この資質と意欲を持った者を求めます。

現職教員学生は、本専攻修了後、教頭や指導主事、研究主任や教務主任など、学校改革の中核として働くことが期待され、将来は地域教育界のリーダーや管理職として働く教員になることを目指します。

学部新卒学生は、修了後、これまで以上に即戦力となる授業実践力を身につけた教員となり、就職後は、広い視野に立って教育活動を俯瞰し、同僚と協働しながら、学校改革や授業改善を牽引できる教員となるべく自己研鑽に努めることを目指します。

■期待する目標



滋賀県公立学校教員人材育成方針



・滋賀県がめざす教員像

使命感、責任感、教育的愛情（自主的に学び続ける）
専門的指導力（授業力、生徒指導力、学校経営力等）
人間性と社会性（コミュニケーション力と同僚との連携）

・教員に求められる力

授業力、生活指導力、学級経営力、組織対応力

・管理職に求められる資質能力

学校教育の原動力、学校経営の推進力、関係機関との連携力

— 教職大学院の3つのポリシー —

学校経営力開発コースは、スクールリーダー、特に地域リーダーの育成を目指して教職経験15～20年前後の現職教員学生を対象とします。教育実践力開発コースは、ミドルリーダーの育成を目指して教職経験6～15年前後の現職教員学生を対象とします。授業実践力開発は、確実な授業実践力や教科指導力などを身に付けた新任教員の育成を目指して主に学部新卒学生を対象とします。ダイバーシティ教育力開発コースは、多様な教育的ニーズを抱える子どもの発達を支える専門性を備えた教員の育成を目指して学部新卒学生や現職教員学生を対象とします。教職大学院の3つのポリシー、すなわち、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、アドミッション・ポリシー（求める学生像）は、次の通りです。

ディプロマ・ポリシー

教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）では、以下の能力を身に付けた学生に対して、教職修士（専門職）の学位を授与する。高度教職実践専攻では、以下の能力を修得することを修了認定の基準とする。

- ① 学び・成長し続けるための自己省察力
- ② 新たな学びを生み出すための学校課題解決力
- ③ 同僚教師、専門家、地域との協働力
- ④ データサイエンス基礎力
- ⑤ 教職経験に応じて高めるべき能力：学校経営企画力（学校経営力開発コース）、新しい学びの構想力（教育実践力開発コース）、科学的・俯瞰的な視点から授業をデザインする力（授業実践力開発コース）、子どもの発達を支える専門的能力（ダイバーシティ教育力開発コース）

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーとして掲げた修了認定の基準を実現するために、以下の方針に従って、「共通科目」及び「コース科目」のカリキュラムを編成する。

- ① 現代的な諸課題をテーマに、最新の専門理論・技術と実践を往還
- ② 時代が求める教育を地域に応じて展開できる理論の修得と実践
- ③ 地域の学校・子どもの実態、必要性に応じた実践を行うための理論・技術の修得
- ④ 地域の関係機関との連携による教育実践に関する充実した実習
- ⑤ 到達目標の達成度にもとづいた成績評価

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

- ① 本専攻の学修に必要な基礎適応力や教育実践経験を有する人
- ② 学校や地域が直面する諸課題の解決に強い意欲をもつ人
- ③ 教員としての基本的資質・能力を有し、実践的指導力向上への意欲をもつ人
- ④ 研究成果を学校や地域の教育に還元しようとする熱意をもつ人

■コース紹介

学校経営力開発コース

学校経営力開発コースでは、学校単位はもちろん地域レベル（中学校区や自治体等の圏域）も含む学校改善を牽引できるトップリーダー（地域リーダー）の養成を目指し、学校や地域レベルの教育政策立案能力、学校経営企画力、学校マネジメント力、改革の理念を学校内で共有し、地域に発信するコミュニケーション力、地域連携協働力を育成します。本コースで育成しようとする資質能力は、滋賀県の「人材育成指標」において管理職に求められている「学校教育の原動力」「学校経営の推進力」「関係機関との連携力」の3つの資質能力と連動しています。とりわけ滋賀県では、市町等地域レベルでの課題解決が期待される教育課題が多いことから、教職大学院拡充・一本化に際して、学校経営力開発コースにおいては、地域の教育課題を一学校の単位を超えて俯瞰的に把握し解決する課題解決力や、地域と歩む学校づくりを推進する連携協働力の育成に、より力を注ぎ、重点を置きます。

教育実践力開発コース

教育実践力開発コースでは、新たな教育実践を創成し、学校内外でそれをリードできるミドルリーダーの養成を目指し、授業改善やカリキュラムマネジメントを行うカリキュラム開発力、新しい学びの構想力、学校や地域との連携、若手教員を主とした同僚の支援を通じて教育力の向上に取り組む協働力を育成します。本コースで育成しようとする資質能力は、滋賀県の「人材育成指標」において、キャリアステージの第Ⅱから第Ⅲステージにおける「学年・分掌等を見据えた実践」や「学校全体を見据えた実践」につながり、その中で求められている「若手教員育成のためのOJT活動への積極的取組」や「同僚との協働」「校内研修による学校全体の授業改善の推進」などの指標と連動し、その資質能力のさらなる高度化をめざします。

授業実践力開発コース

新設の授業実践力開発コースは主に学部新卒学生を対象とし、確実な授業実践力、教科指導力、学級経営力を備え、新しい学びを推進できる新任教員の育成をめざします。本コースで育成する資質能力は、学部の学修を発展させ、科学的・俯瞰的な視点から授業をデザインする力、同僚や保護者等との協働力やコミュニケーション力等です。これらの資質能力は、滋賀県の「人材育成指標」の準備ステージ（採用前段階）を超えた第Ⅰステージにおける「学級・教科担当等を中心にした実践」につながり、その中で求められている「教材研究力」「学習形態の工夫や適切な指導方法」「児童生徒理解」「同僚とのコミュニケーション」「保護者との連携」等と連動しています。

ダイバーシティ教育力開発コース

新設のダイバーシティ教育力開発コースでは、多様な教育的ニーズを抱える子どもの育ちを広い視野からの確に捉え、発達を支える専門性を備えた教員の養成をめざし、特別支援教育・インクルーシブ教育の推進力、関係者・関係機関と連携しながら学校を支援できるコーディネート力、多様な教育的ニーズに応じた個別の指導計画や教育支援計画等の編成力、心理検査の知識と理解をベースとしたアセスメント力を育成します。本コースで育成しようとする資質能力は、滋賀県が策定している「滋賀のめざす特別支援教育ビジョン（実施プラン）」（平成28年3月）において具体的に取り組むべき事項として示されている「発達段階に応じた指導の充実」「教員の指導力や専門性の向上」「教育における連携（役割分担）の推進」等に直結します。また、日本語指導が必要な外国人児童生徒等（日本国籍の児童生徒を含む）が滋賀県において近年再び増加しており、今後さらに増加が見込まれることから、「学校におけるきめ細かな支援の充実」と「関係機関等との連携による教育機会の確保と共生」の必要性が示されていること（令和元年度第2回滋賀県総合教育会議資料）とも連動しています。

各コースの目指す教員像・育成する資質能力

以上、各コースにおいて養成する教員像と、そのために育成する資質能力を表にまとめています。

表 各コースの養成する教員像と育成する資質能力

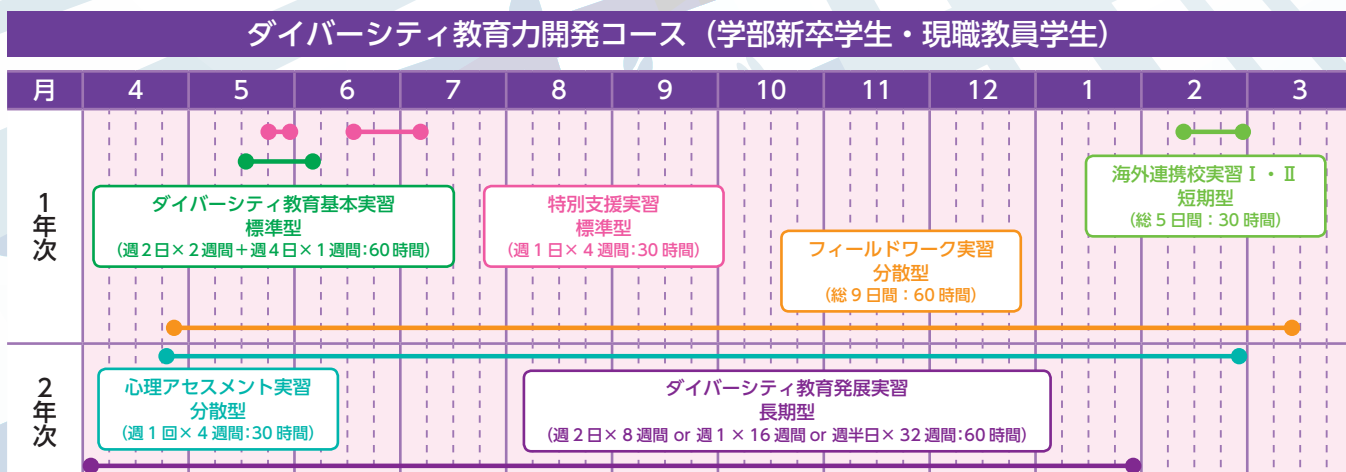
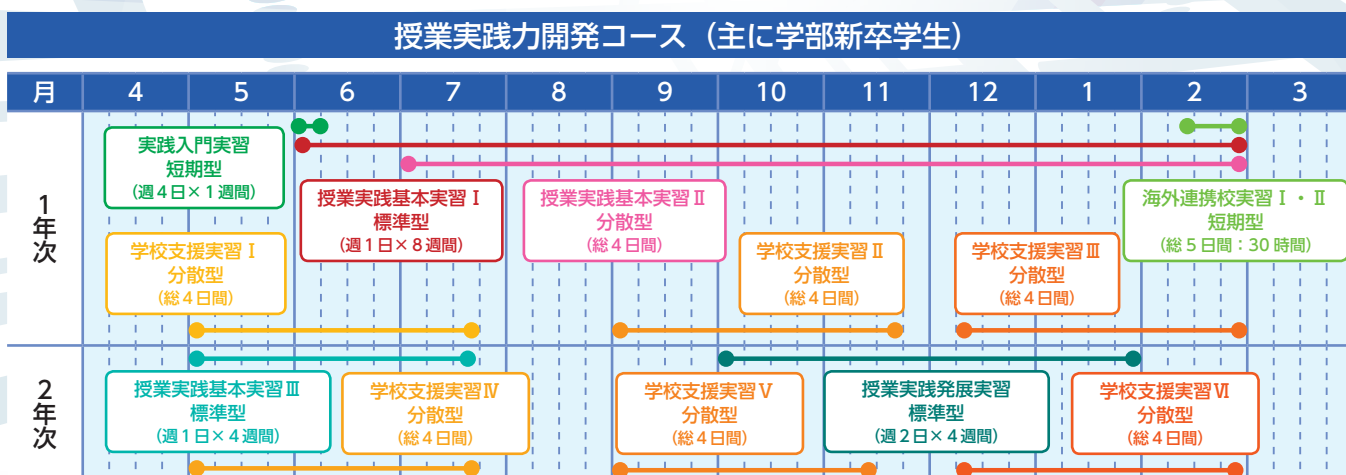
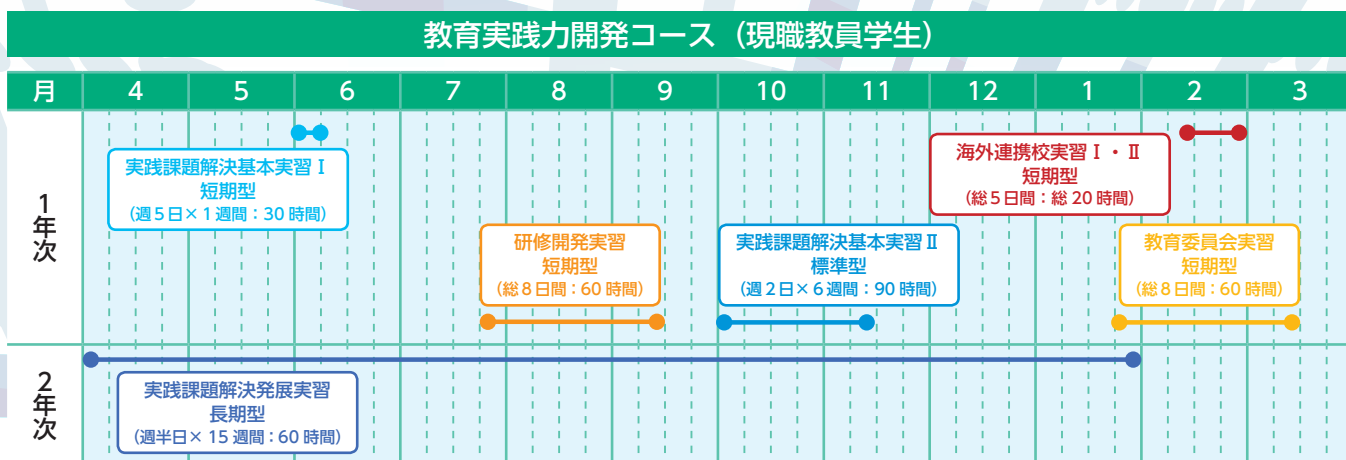
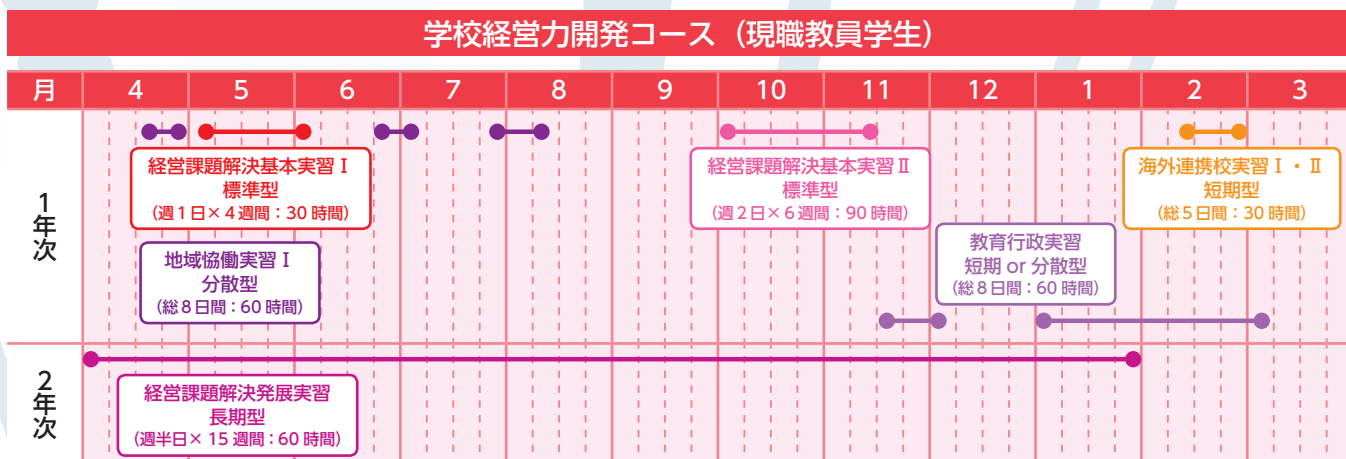
コース	対象学生	養成する教員像	育成する資質能力
学校経営力開発コース	現職教員学生	学校や地域の教育課題を俯瞰的に把握し解決する課題解決力、学校の組織・カリキュラムを改革できる学校マネジメント力、地域と歩む学校づくりを推進する連携協働力を備えて、 <u>地域レベルの学校改善を牽引できるトップリーダー（地域リーダー）</u>	- 学校・地域の教育課題に効果的に対応する教育政策立案能力等 の学校経営企画力 - 学校の組織とカリキュラムを改革できる学校マネジメント力 - 改革の理念を学校内で共有し、地域に発信するコミュニケーション力 - 地域と一体となって教育力を発揮する学校づくりを推進する、危機管理能力を含む地域連携協働力
教育実践力開発コース	現職教員学生	広い視野で教育活動を俯瞰し、同僚と協働して、校内研修を企画し、教科指導や生徒指導を牽引できる <u>高度な教育実践力を備えたミドルリーダー</u>	- 授業改善に向けた多面的評価や学校独自のカリキュラムマネジメントを行うカリキュラム開発力 - 新たな教育課題を発見・探究し、解決に向かう新しい学びの構想力 - 学校や地域との連携、同僚（とりわけ若手教員）の支援を通じて、教育力の向上に取り組むための協働力や支援力
授業実践力開発コース	主に学部新卒学生	学級・教科担任として十分な教育実践力、授業実践力と学級経営力、保護者や地域と連携できるコミュニケーション力、同僚教師と協働して <u>新しい学びを推進できる</u> 能力を備えた新人教員	- 学部の学修を発展させたより高度な授業実践力と授業研究力 - 教科横断的な学習における授業実践力 - 教育課題を科学的及び俯瞰的に捉え直す力 - 新しい学びを同僚教師とともに推進する協働力 - 同僚、保護者、地域と連携できるコミュニケーション力 - 学び・成長し続けるための自己省察力
ダイバーシティ教育力 開発コース	学部新卒学生・現職教員学生	発達上の課題や障害、心身疾患・問題、いじめ、不登校、虐待、外国人児童生徒など、多様な教育的ニーズを抱える <u>子どもの育ちを広い視野から的確に捉えて、発達を支える専門性を備えた教員</u>	- 学校園における特別支援教育、インクルーシブ教育の推進力 - 教員、保護者、学校内外の他職種専門家、専門機関との連携を推進し、チーム学校支援に貢献できるコーディネート力 - 多様な教育的ニーズとその背景要因を多面的に見取り、支援方針を立て、個別の指導計画や教育支援計画等を編成できる力 - 心理検査に関する深い知識と理解をベースにしたアセスメント力

教育課程と科目一覧

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				担当教員	備考欄
			必	修	選	択		
共通科目	【教育課程の編成及び実施に関する領域】							
	教育課程編成の理論と実践	1 春	2				岸本・畑・白石(牧)	
	授業実践の探究と教育課程	1 春	2				堀江・畑	
	【教科等の実践的な指導方法に関する領域】							
	確かな学力を伸ばす指導と評価	1 秋	2				岸本・畑・白石(牧)	
	メディア活用実践研究	1 秋	1				畑・岩井	
	滋養的教育課題と指導方法	1 秋	1				奥田・久保・林(睦)・藤岡・田村・今井	
	【生徒指導及び教育相談に関する領域】							
	生徒指導・教育相談の理論と実践	1 春	2				芦谷・若松・田村	
	ダイバーシティ教育の理論と実践	1 秋	2				窪田・川島・児玉・三輪	
	【学級経営及び学校経営に関する領域】							
	学びの基盤となる学級経営の探究	1 秋	1				畑・蔵永	
	学校経営の理論と実践	1 秋	1				大野・今井・河原	
	【学校教育と教員の在り方に関する領域】							
	現代社会の課題と教員役割	1 春	2				藤岡・今井	
実習科目	学校教育におけるデータサイエンス	1 春	2				太田・若松・畑・篠原	
	小計 (11 科目)	—	18	0			—	
	開発コース 学校経営力	経営課題解決基本実習Ⅰ	1 春	1			大野・藤村・今井・河原	
		経営課題解決基本実習Ⅱ	1 秋	3			大野・藤村・今井・河原	
		経営課題解決発展実習	2 通	2			大野・藤村・今井・河原	
		地域協働実習	1 春	2			藤岡・今井・河原	
		教育行政実習	1 秋	2			大野・藤村・今井・河原	
		小計 (5 科目)	—	10	0		—	
	開発コース 教育実践力	実践課題解決基本実習Ⅰ	1 春	1			岸本・辻・若松・堀江・田村・畑・川島・白石(牧)	
		実践課題解決基本実習Ⅱ	1 秋	3			岸本・辻・若松・堀江・田村・畑・川島・白石(牧)	
		実践課題解決発展実習	2 通	2			岸本・辻・若松・堀江・田村・畑・川島・白石(牧)	
		研修開発実習	1 春	2			岸本・辻・若松・堀江・田村・畑・白石(牧)	
		教育委員会実習	1 秋	2			岸本・辻・若松・堀江・田村・白石(牧)	
		小計 (5 科目)	—	8	2		—	
	授業実践力開発コース	実践入門実習	1 春	1			太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・石田・黒川・西村	
		授業実践基本実習Ⅰ	1 通	2			太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・石田・黒川・西村	
		授業実践基本実習Ⅱ	1 通	1			太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・川島・白石(牧)	
		授業実践基本実習Ⅲ	2 春	1			太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・石田・黒川・西村	
		授業実践発展実習	2 秋	2			太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・石田・黒川・西村	
		学校支援実習Ⅰ	1 通		1		太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・畑・石田・黒川・西村・細谷	
		学校支援実習Ⅱ	1 通		1		太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・畑・石田・黒川・西村・細谷	
		学校支援実習Ⅲ	1 通		1		太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・畑・石田・黒川・西村・細谷	
		学校支援実習Ⅳ	2 通		1		太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・畑・石田・黒川・西村・細谷	
		学校支援実習Ⅴ	2 通		1		太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・畑・石田・黒川・西村・細谷	
		学校支援実習Ⅵ	2 通		1		太田・久保・高澤・岳野・林(睦)・長岡・村田・畑・石田・黒川・西村・細谷	
		小計 (11 科目)	—	7	6		—	
	ダイバーシティ 教育力開発コース	ダイバーシティ教育基本実習	1 春	2			奥田・西村・細谷・川島・山本	
		特別支援実習	1 春	1			窪田・松島・細谷・川島・白石(恵)	
		フィールドワーク実習	1 通	2			芦谷・渡部・窪田・松島・川島・江原・児玉	
		心理アセスメント実習	2 通	1			芦谷・窪田・松島・川島・白石(恵)・羽山	
		ダイバーシティ教育発展実習	2 通	4			芦谷・奥田・渡部・窪田・松島・川島	
		小計 (5 科目)	—	10	0		—	
	各コース 共通	海外連携校実習Ⅰ	1・2 秋		1		奥田・岸本・高澤・岳野・辻・藤村・畑・川島・白石(牧)・児玉	
		海外連携校実習Ⅱ	1・2 秋		1		奥田・大野・岸本・高澤・岳野・辻・畑・川島・白石(牧)・児玉	
		小計 (2 科目)	—	0	2		—	
コース別選択科目	学校経営力開発コース	学校組織マネジメント研究	1 春	2			大野・田村	
		学校経営と教育リーダーシップ	1 春	2			大野・今井・河原	
		教職員の職能開発システムに関する実践的研究	1 春	2			大野・藤村・今井	
		カリキュラムマネジメントと校内研修	1 秋	2			大野・今井	
		教育政策・教育行政の理論と実践	1 秋	2			藤村・田村・今井	
		学校安全・学校危機管理に関する実践的研究	1 春	2			藤岡・今井・河原	
		学校と地域の連携協働に関する実践的研究	1 秋		2		大野・今井	○
		教育法規の理論と実践	1 春		2		大野・田村・渡邊(暁)	○
		教育実践課題解決研究Ⅰ(経営)	1 春	1			大野・藤岡・藤村・今井・河原	
		教育実践課題解決研究Ⅱ(経営)	1 秋	1			大野・藤岡・藤村・今井・河原	
		教育実践課題解決研究Ⅲ(経営)	2 春	1			大野・藤岡・藤村・今井・河原	
		教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)	2 秋	1			大野・藤岡・藤村・今井・河原	
		小計 (12 科目)	—	16	4		—	
	教育実践力開発コース	教育方法の開発と実践研究	1 春	2			堀江・畑・白石(牧)	○
		メンタリングと校内研修	1 春	2			辻・畑・白石(牧)	○
		学校教育のアクションリサーチ	1 秋	2			岸本・畑・白石(牧)	
		社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育	1 秋	2			若松・田村	
		教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践)	1 春	1			岸本・辻・若松・堀江・畑・白石(牧)	
		教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践)	1 秋	1			岸本・辻・若松・堀江・畑・白石(牧)	
		教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践)	2 春	1			岸本・辻・若松・堀江・畑・白石(牧)	
		教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践)	2 秋	1			岸本・辻・若松・堀江・畑・白石(牧)	
		小計 (8 科目)	—	12	0		—	
	授業実践力開発コース	教師のキャリア発達と教育実践	1 春	2			太田・石田・黒川	
		プログラミング教育の実践と教材開発	1 秋	2			岳野・石田・黒川・右田	
		初等言語教育の理論と実践	1 秋		2		長岡・白石(牧)・大嶋・田中(佑)	○
		言語教育実践と教材開発研究	1 春		2		中村・松丸	○
		古典教育と教材開発研究	1 春		2		井ノ口・二宮	○
		英米文学と英語科教材開発への応用	1 春		2		林(直)	○
		言語学理論と英語科教材開発への応用	1 秋		2		板東・于	○
		初等社会科教育の理論と実践	1 秋		2		岸本	○
		社会科・地理歴史科教材開発研究	1 春		2		宇佐見・大清水・松田(隆)・安藤	○
		社会科・公民科教材開発研究	1 秋		2		齋藤・馬場・渡邊(暁)・宮本	○
		初等理数教育の理論と実践	1 春		2		高澤・加納・渡邊(慶)	○
		理科の発展的理解と指導法	1 春		2		糸乗・恒川・徳田・服部・古橋・大山	○

コース別選択科目	授業実践力開発コース	理科観察実験研究「生命・地球」	2 春	2	服部・古橋・大山	○
		理科観察実験研究「物質・エネルギー」	1 秋	2	糸乗・恒川・徳田	○
		算数・数学科教材開発研究「数と形」	1・2 秋	2	篠原・長谷川	○
		算数・数学科教材開発研究「関数」	1・2 春	2	神・鈴木	○
		数学の歴史を活かした数学教育	1・2 秋	2	篠原・長谷川	○
		数学の実験を活かした数学教育	1・2 春	2	神・鈴木	○
		初等体育科教育の理論と実践	1 秋	2	辻・大平	○
		体力科学実践研究	1 春	2	辻・松田（繁）	○
		健康科学実践研究	1 秋	2	辻・大平	○
		初等生活科・家庭科教育の理論と実践	1 春	2	久保・石川・田中（宏）・與倉・平松・森	○
		家庭科教育教材開発研究	1 秋	2	久保・田中（宏）・與倉・平松	○
		技術科教育教材開発研究	1 春	2	岳野・水上・森	○
		初等芸術教育の理論と実践	1 春	2	林（睦）・村田	○
		美術科教材開発研究「造形表現」	1 春	2	藤田・世ノ一	○
		美術科教材開発研究「美術鑑賞」	1 秋	2	新関・藤田・世ノ一	○
		音楽科教材開発研究「表現」	1 春	2	犬伏・渡邊（史）	○
		音楽科教材開発研究「鑑賞」	1 春	2	若林・中根	○
		教育実践課題解決研究Ⅰ（授業実践）	1 春	1	太田・久保・高澤・岳野・林（睦）・長岡・村田・石田・黒川	
		教育実践課題解決研究Ⅱ（授業実践）	1 秋	1	太田・久保・高澤・岳野・林（睦）・長岡・村田・石田・黒川	
		教育実践課題解決研究Ⅲ（授業実践）	2 春	1	太田・久保・高澤・岳野・林（睦）・長岡・村田・石田・黒川	
		教育実践課題解決研究Ⅳ（授業実践）	2 秋	1	太田・久保・高澤・岳野・林（睦）・長岡・村田・石田・黒川	
		小計（33 科目）	—	8	54	—
	ダイバーシティ教育力開発コース	スペシャルニーズ教育の理論と実践	1 春	2	窪田・川島	○
		子どもの心の臨床心理学的理解と支援	1 秋	2	芦谷・川島	○
		心理的アセスメントと子ども支援	1 秋	2	芦谷・松島・川島	
		外国人児童生徒教育の理論と実践	1 秋	2	児玉	
		特別支援教育の臨床的探究	1 春	2	川島・白石（恵）	○
		幼年教育の理論と実践	1 秋	2	奥田・西村・川島	○
		教育・保育の方法と省察	1 秋	2	西村・山本	○
		特別支援教育授業研究	1・2 春	2	白石（恵）	
		障害児の発達診断・発達相談演習	1・2 春	2	白石（恵）	
		多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応	1・2 秋	2	窪田	
		障害児の心理と学校教育	1・2 秋	2	松島	
		障害児の心理と子ども支援	1・2 秋	2	松島	
		特別支援教育の教育方法学的探究	1・2 春	2	羽山	
		特別支援教育の現代的実践と課題	1・2 秋	2	羽山	
		障害児の病理と教育支援	1・2 春	2	江原	
		障害児の病理と健康支援	1・2 秋	2	江原	
		子どもの発達と支援	1 春	2	渡部・細谷・江原	
		教育実践課題解決研究 AⅠ（ダイバーシティ）	1 春	1	奥田・渡部・西村	
		教育実践課題解決研究 AⅡ（ダイバーシティ）	1 秋	1	奥田・渡部・西村	
		教育実践課題解決研究 AⅢ（ダイバーシティ）	2 春	1	奥田・渡部・西村	
		教育実践課題解決研究 AⅣ（ダイバーシティ）	2 秋	1	奥田・渡部・西村	
		教育実践課題解決研究 BⅠ（ダイバーシティ）	1 春	1	芦谷・窪田・松島・川島	
		教育実践課題解決研究 BⅡ（ダイバーシティ）	1 秋	1	芦谷・窪田・松島・川島	
		教育実践課題解決研究 BⅢ（ダイバーシティ）	2 春	1	芦谷・窪田・松島・川島	
		教育実践課題解決研究 BⅣ（ダイバーシティ）	2 秋	1	芦谷・窪田・松島・川島	
		小計（25 科目）	—	14	28	—
合計（117 科目）		—	103	96	—	
学位又は称号		教職修士（専門職）	学位又は学科の分野		教員養成関係	
修了要件及び履修方法		授業期間等				
【修了要件】 本専攻に2年以上在学し、所定の46単位以上を修得すること。		1 学年の学期区分： 2 期				
		1 学期の授業時間：1 5 週				
		1 時限の授業時間：9 0 分				

■実習科目の学修イメージと実習科目一覧



■表 実習科目一覧（概要）

コース	授業科目名		概 要	実習場所	開講期	単位数	
						必修	選択
学校経営力開発コース	経営課題解決基本実習	I	連携協力校（勤務校）で学校経営に参画し、学校教育改革に必要な課題を発見し解決していく方法を探究する。	連携協力校	1	1	－
		II			2	3	－
	経営課題解決発展実習		連携協力校（勤務校）での教育活動を通して、自己の研究課題を事例的に探求・評価・検証し解決していく方法を探究する。	連携協力校	3・4	2	－
	地域協働実習		教育委員会や社会教育施設等の協力を得て、学校と地域教育関連施設との連携・協働の方法を探究する。	教育委員会 社会教育施設	1	2	－
	教育行政実習		教育行政・政策に関する具体的な場面での実践を観察し、政策立案・実施の基礎となる実践力を修得する。	教育委員会 県総合教育センター	2	2	－
	海外連携校実習	I	タイの協定大学及び附属学校等を参観し、教師や子どもとの交流活動を通して、グローバルな視野から教育を探究する。	タイ協定大学及び 協定大学附属学校等	2・4 (隔年)	－	1
II		台湾の協定大学及び附属学校等を参観し、教師や子どもとの交流活動を通して、グローバルな視野から教育を探究する。	台湾協定大学及び 協定大学附属学校等	2・4 (隔年)	－	1	
教育実践力開発コース	実践課題解決基本実習	I	連携協力校（勤務校）で教育課程全般に亘って参与観察及び支援を行い、教育課題を再発見して解決の方法を探究する。	連携協力校	1	1	－
		II			2	3	－
	実践課題解決発展実習		連携協力校（勤務校）での授業実践等を通して、自己の研究課題を探究・評価する。	連携協力校	3・4	2	－
	研修開発実習		滋賀県総合教育センターで指導補助員として研修企画や評価に参画する。	総合教育センター	1	2	－
	教育委員会実習		県市町教育委員会等において、学校訪問の参観、研修会や協議会の運営補助を経験し、教育活動を多角に省察する。	教育委員会	2	うち 必修2	2
	海外連携校実習	I	前掲	前掲	2・4 (隔年)		1
		II					1
授業実践力開発コース	実践入門実習		附属幼稚園・小・中学校において、保育や授業の観察方法について学びつつ、実際に保育・授業観察と分析を行う。	附属学校園	1	1	－
	授業実践基本実習	I	県市町教育委員会・総合教育センター・教育研究所等の実施事業に参加することを通し、授業実践研究の進め方を学ぶ。	附属学校園	1・2	2	うち 必修3
		II	県市町教育委員会・総合教育センター・教育研究所等の実施事業に参加することを通し、授業実践研究の進め方を学ぶ。	総合教育センター 市町教育研究所	1・2	1	
		III	附属学校園、連携協力校等で授業等の実践を行い、自己の研究課題を探究する。	附属学校園 連携協力校	3	1	
	授業実践発展実習		附属学校園・連携協力校で授業等の実践を行い、自己の研究課題を発展・深化させる。	附属学校園 連携協力校	4	2	－
	学校支援実習	I	教職大学院1年次に、公立学校及び附属学校園の教育活動に参加することを通して、学校の1年間の動きの一端を体験したり、子どもの個別の教育ニーズに対応したりしながら、自己のスキルアップに繋げる。	附属学校園 連携協力校	1・2	うち 必修3	1
		II					1
		III			3・4		1
		IV					1
		V					1
海外連携校実習	I	前掲	前掲	2・4 (隔年)	1		
	II				1		
ダイバーシティ教育力開発コース	ダイバーシティ教育基本実習		連携協力校（幼稚園・小学校）で特別な支援を要する子どもの参与観察を行い、教師の支援について学ぶ。	連携協力校	1	2	－
	特別支援実習		附属特別支援学校において、障害のある子どもの発達段階や特性に応じた支援のあり方および教育活動・授業づくりについて学ぶ。	附属学校園	1	1	－
	フィールドワーク実習		学校外教育関連施設で施設見学、参与観察等を行いアフターレクチャーにより多様なニーズを抱える子どもへの地域教育連携体制について見通しを持つ。	国県市町・民間の 教育関連施設	1・2	2	－
	心理アセスメント実習		附属学校園での児童生徒の発達検査、〔個別の指導計画〕の作成、学習・発達支援室の活動などに参加し、心理アセスメントについて実践的に学ぶ。	附属学校園	3・4	1	－
	ダイバーシティ教育発展実習		各問題意識に応じたフィールドにおいて、教育的・実践的な支援活動を行い、自己の研究課題を事例的に探究・検証し、これまでの学びを総括する。	附属学校園 連携協力校 その他教育関連施設	3・4	4	－
	海外連携校実習	I	前掲	前掲	2・4 (隔年)	－	1
		II				－	1
必要修得単位数							10

開講期 ー 1：1 年次春学期、2：1 年次秋学期、3：2 年次春学期、4：2 年次秋学期

■ 4つのコースの学修イメージ

学校経営力開発コース

		共通科目		コース科目		コース連携科目		実習科目		◎他コースの院生も受講可			
		月		火		水		木		金		土	
1 年 次	前期	1限	【必】教育課程編成の理論と実践					【必】学校教育におけるデータサイエンス					
		2限	【必】学校組織マネジメント研究	【必】現代社会の課題と教員役割			【必】学校安全・学校危機管理に関する実践的研究		【必】経営課題解決基本実習Ⅰ				
		3限	【必】学校経営と教育リーダーシップ	【必】生徒指導・教育相談の理論と実践	【必】経営課題解決基本実習Ⅰ 【必】地域協働実習		【必】教職員の職能開発システムに関する実践的研究		【必】地域協働実習				
		4限	◎教育法規の理論と実践	【必】授業実践の探究と教育課程									
		5限	【必】教育実践課題解決研究Ⅰ(経営)										
	後期	1限	【必】確かな学力を伸ばす指導と評価					【必】学びの基盤となる学級経営の探究 【必】学校経営の理論と実践					
		2限	【必】カリキュラムマネジメントと校内研修	【必】メディア活用実践研究 【必】滋養的教育課題と指導方法	【必】経営課題解決基本実習Ⅱ 【必】教育行政実習		◎学校と地域の連携協働に関する実践的研究		【必】経営課題解決基本実習Ⅱ 【必】教育行政実習				
		3限		【必】教育政策・教育行政の理論と実践			【必】ダイバーシティ教育の理論と実践						
		4限											
		5限	【必】教育実践課題解決研究Ⅱ(経営)							集中 《奇数》海外連携校実習Ⅰ 《偶数》海外連携校実習Ⅱ			
		月		火		水		木		金		土	
2 年 次	前期	1限											
		2限	メンタリングと校内研修									【必】教育実践課題解決研究Ⅱ(経営)	
		3限	スペシャルニーズ教育の理論と実践			【必】経営課題解決発展実習		特別支援教育の臨床的探究					
		4限											
		5限											
	後期	1限											
		2限						幼年教育の理論と実践				【必】教育実践課題解決研究Ⅲ(経営)	
		3限	教育・保育の方法と省察 社会的・職業的自立を支援する 進路指導とキャリア教育			【必】経営課題解決発展実習							
		4限											
		5限		子どもの心の臨床心理学的理解と支援							集中 《奇数》海外連携校実習Ⅰ 《偶数》海外連携校実習Ⅱ		

【頭記号の意味】【必】必修科目 《奇数》奇数年度開講 《偶数》偶数年度開講

※授業実践力開発コースのコース連携科目は授業実践力開発コースの科目表で確認

教育実践力開発コース

		共通科目		コース科目		コース連携科目		実習科目		◎他コースの院生も受講可			
		月		火		水		木		金		土	
1 年 次	前期	1限	【必】教育課程編成の理論と実践					【必】学校教育におけるデータサイエンス		【必】実践課題解決基本実習Ⅰ 【必】研修開発実習 教育委員会実習			
		2限	◎【必】メンタリングと校内研修	【必】現代社会の課題と教員役割		【必】実践課題解決基本実習Ⅰ 【必】研修開発実習 教育委員会実習							
		3限	スペシャルニーズ教育の理論と実践	【必】生徒指導・教育相談の理論と実践		特別支援教育の臨床的探究							
		4限	教育法規の理論と実践	【必】授業実践の探究と教育課程									
		5限	【必】教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践)					【必】集中 ◎教育方法の開発と実践研究					
	後期	1限	【必】確かな学力を伸ばす指導と評価				【必】学びの基盤となる学級経営の探究 【必】学校経営の理論と実践		【必】実践課題解決基本実習Ⅱ 教育委員会実習				
		2限		【必】メディア活用実践研究 【必】滋養の教育課題と指導方法	【必】実践課題解決基本実習Ⅱ 教育委員会実習		幼年教育の理論と実践 学校と地域の連携協働に関する実践的研究						
		3限	【必】社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育				【必】ダイバーシティ教育の理論と実践						
		4限	【必】学校教育のアクションリサーチ										
		5限	【必】教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践)	子どもの心の臨床心理学的理解と支援			集中 《奇数》海外連携校実習Ⅰ 《偶数》海外連携校実習Ⅱ						
		月		火		水		木		金		土	
2 年 次	前期	1限											
		2限								【必】教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践)			
		3限				【必】実践課題解決発展実習							
		4限											
		5限											
	後期	1限											
		2限								【必】教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践)			
		3限	教育・保育の方法と省察			【必】実践課題解決発展実習							
		4限											
		5限						集中 《奇数》海外連携校実習Ⅰ 《偶数》海外連携校実習Ⅱ					

【頭記号の意味】【必】必修科目 《奇数》奇数年度開講 《偶数》偶数年度開講

※授業実践力開発コースのコース連携科目は授業実践力開発コースの科目表で確認

授業実践力開発コース

				共通科目	コース科目	コース連携科目	実習科目	◎他コースの院生も受講可					
				月	火	水	木	金	土				
1年次	前期	1限	【必】教育課程編成の理論と実践	◎〈奇数〉算数・数学教材開発研究「開数」 ◎〈偶数〉数学の実験を活かした数学教育 ◎体力科学実践研究 ◎音楽科教材開発研究「表現」	【必】実践入門実習 (6月の1週間) 【必】授業実践基本実習Ⅰ 【必】授業実践基本実習Ⅱ 学校支援実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	【必】学校教育におけるデータサイエンス ◎初等芸術教育の理論と実践 ◎社会科・地理歴史科教材開発研究 ◎言語教育実践と教材開発研究 ◎初等理数教育の理論と実践 ◎英米文学と英語教材開発への応用	◎理科の発展的理解と指導法 ◎初等生活科・家庭科教育の理論と実践 ◎古典教育と教材開発研究 ◎技術科教育教材開発研究						
		2限		【必】現代社会の課題と教員役割									
		3限	◎音楽科教材開発研究「鑑賞」	【必】生徒指導・教育相談の理論と実践									
		4限	【必】教師のキャリア発達と教育実践	【必】授業実践の探究と教育課程									
		5限	【必】教育実践課題解決研究Ⅰ (授業実践)	◎美術科教材開発研究「造形表現」								集中 教育方法の開発と実践研究	
	後期	1限		◎〈奇数〉算数・数学教材開発研究「数と形」 ◎〈偶数〉数学の歴史を活かした数学教育 ◎初等社会科教育の理論と実践 ◎健康科学実践研究	【必】授業実践基本実習Ⅰ 【必】授業実践基本実習Ⅱ 学校支援実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	【必】学びの基盤となる学級経営の探究 【必】学校経営の理論と実践 ◎社会科・公民科教材開発研究 【必】ダイバーシティ教育の理論と実践	◎理科観察実験研究「物質・エネルギー」(一部集中)						
		2限	◎初等言語教育の理論と実践 ◎初等体育科教育の理論と実践	【必】メディア活用実践研究(若井・畑) 【必】滋養の教育課題と指導方法									
		3限		◎家庭科教育教材開発研究									
		4限	【必】プログラミング教育の実践と教材開発								◎言語学理論と英語科教材開発への応用		
		5限	【必】教育実践課題解決研究Ⅱ	◎美術科教材開発研究「美術鑑賞」								集中 ◎〈奇数〉海外連携校実習Ⅰ ◎〈偶数〉海外連携校実習Ⅱ	
				月	火	水	木	金	土				
2年次	前期	1限		◎〈奇数〉算数・数学教材開発研究「開数」 ◎〈偶数〉数学の実験を活かした数学教育	【必】授業実践基本実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ								
		2限	メンタリングと校内研修								【必】教育実践課題解決研究Ⅱ (授業実践)		
		3限	スペシャルニーズ教育の理論と実践							特別支援教育の臨床的探究			
		4限	教育法規の理論と実践								◎理科観察実験研究「生命・地球」(一部集中)		
		5限											
	後期	1限	【必】確かな学力を伸ばす指導と評価	◎〈奇数〉算数・数学教材開発研究「数と形」 ◎〈偶数〉数学の歴史を活かした数学教育	【必】授業実践発展実習 学校支援実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	幼年教育の理論と実践 学校と地域の連携協働に関する実践的研究			【必】教育実践課題解決研究Ⅲ (授業実践)				
		2限											
		3限	教育・保育の方法と省察 社会的・職業的自立を支援する 進路指導とキャリア教育										
		4限											
		5限		子どもの心の臨床心理学的理解と支援									集中 ◎〈奇数〉海外連携校実習Ⅰ ◎〈偶数〉海外連携校実習Ⅱ

【順記号の意味】 【必】必修科目 〈奇数〉奇数年度開講 〈偶数〉偶数年度開講

ダイバーシティ教育力開発コース

				共通科目	コース科目	コース連携科目	実習科目	◎他コースの院生も受講可	
		月	火	水	木	金	土		
1 年次	前期	1限	【必】教育課程編成の理論と実践		【必】ダイバーシティ教育基本実習	【必】学校教育におけるデータサイエンス 子どもの発達と支援	【必】ダイバーシティ教育基本実習		
		2限		【必】現代社会の課題と教員役割	【必】特別支援実習	◎特別支援教育の臨床的探究	【必】特別支援実習		
		3限	◎【必】スペシャルニーズ教育の理論と実践	【必】生徒指導・教育相談の理論と実践	【必】フィールドワーク実習		【必】フィールドワーク実習		
		4限		【必】授業実践の探究と教育課程					
		5限	【必】教育実践課題解決研究 AⅠ (ダイバーシティ) BⅠ (ダイバーシティ)				集中 (奇数) 特別支援教育授業研究 (奇数) 障害児の病理と教育支援 (偶数) 障害児の発達診断・発達相談演習 (偶数) 特別支援教育の教育方法学的探究 教育方法の開発と実践研究		
	後期	1限				【必】学びの基盤となる学級経営の探究 【必】学校経営の理論と実践			
		2限		【必】メディア活用実践研究 【必】滋養の教育課題と指導方法	【必】フィールドワーク実習	◎幼年教育の理論と実践	【必】フィールドワーク実習		
		3限	◎教育・保育の方法と省察	外国人児童生徒教育の理論と実践		【必】ダイバーシティ教育の理論と実践			
		4限		【必】心理的アセスメントと子ども支援					
		5限	【必】教育実践課題解決研究 AⅡ (ダイバーシティ) BⅡ (ダイバーシティ)	◎【必】子どもの心の臨床心理学的理解と支援			集中(隔年) (奇数) 多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 (奇数) 障害児の心理と学校教育 (偶数) 障害児の病理と健康支援 (偶数) 障害児の心理と子ども支援 (偶数) 特別支援教育の現代的実践と課題 (奇数) 海外連携校実習Ⅰ (偶数) 海外連携校実習Ⅱ		
		月	火	水	木	金	土		
2 年次	前期	1限							
		2限	メンタリングと校内研修		【必】心理アセスメント実習 【必】ダイバーシティ教育発展実習		【必】心理アセスメント実習 【必】ダイバーシティ教育発展実習	【必】教育実践課題解決研究 AⅢ (ダイバーシティ) BⅢ (ダイバーシティ)	
		3限							
		4限	教育法規の理論と実践						
		5限					集中 (奇数) 特別支援教育授業研究 (奇数) 障害児の病理と教育支援 (偶数) 障害児の発達診断・発達相談演習 (偶数) 特別支援教育の教育方法学的探究		
	後期	1限	【必】確かな学力を伸ばす指導と評価						
		2限			【必】心理アセスメント実習 【必】ダイバーシティ教育発展実習	学校と地域の連携協働に関する実践的研究	【必】心理アセスメント実習 【必】ダイバーシティ教育発展実習	【必】教育実践課題解決研究 AⅣ (ダイバーシティ) BⅣ (ダイバーシティ)	
		3限	社会的・職業的自立を支援する 進路指導とキャリア教育						
		4限							
		5限					集中(隔年) (奇数) 多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 (奇数) 障害児の心理と学校教育 (偶数) 障害児の病理と健康支援 (偶数) 障害児の心理と子ども支援 (偶数) 特別支援教育の現代的実践と課題		

【順記号の意味】 【必】必修科目 〈奇数〉奇数年度開講 〈偶数〉偶数年度開講
※ 授業実践力開発コースのコース連携科目は授業実践力開発コースの科目表で確認

》 教員スタッフ一覧（2021 年度予定）

【研究者教員】

■ 学校経営力開発コース

大野 裕己 教授	学校のビジョン構築と組織開発、スクールリーダーの力量形成、学校経営改革の日米比較
藤岡 達也 教授	防災教育をはじめとした学校安全・学校危機管理、持続可能な社会をつくる環境教育
藤村 祐子 准教授	教員に関する政策研究

■ 教育実践力開発コース

岸本 実 教授	カリキュラムと学び、学習評価、多様性の教育についての教育方法研究、社会科教育、総合的な学習、道徳、特別活動に関する理論的・実践的研究
辻 延浩 教授	教師の職能発達に関する研究、 体育科における学習指導と評価に関する実践的研究
堀江 伸 准教授	教材・題材・文化を学んでいく授業や主題探究型学習についての実践研究
若松 養亮 教授	青年期の進路意思決定過程の解明と支援

■ 授業実践力開発コース

太田 拓紀 教授	教師の職業的社会的化・ライフコース研究、 教師教育に関する歴史社会学的研究
久保 加織 教授	食品の栄養価・嗜好性・機能性に関する研究、食教育に関する研究
高澤 茂樹 教授	数学教育における教師と子どもの認識に関わる研究
岳野 公人 教授	STEAM 教育、情報・技術教育に関する研究
長岡 由記 准教授	国語科教育、文字教育に関する研究
林 睦 教授	音楽のアウトリーチ活動に関する研究、音楽づくりの実践的研究
村田 透 准教授	造形表現行為における子どもの＜意味＞生成や問題発見・解決に関する研究

■ ダイバーシティ教育力開発コース

芦谷 道子 教授	子どもの心身の問題に対する臨床心理学的支援に関する研究 学校予防教育に関する研究
奥田 援史 教授	子どもに関する事象の教育発達的研究 保育内容（健康）に関する実践的研究
窪田 知子 准教授	特別支援教育、多様な教育的ニーズとインクルーシブ教育
松島 明日香 講師	発達障害、特に自閉症スペクトラム児の心理学的理解、心理アセスメントの方法論的検討
渡部 雅之 教授	視点取得を中心とする認知の生涯発達とその教育臨床的応用に関する研究

【実務家教員】

今井 弘樹 准教授	学校経営における管理職のリーダーシップに関する研究
石田 博士 教授	学校改善・授業改善（国語科）に関する実践的研究
川島 民子 准教授	教育的ニーズのある子どもたちへの支援に関する実践研究 不器用な子どもたちへの感覚運動遊びに関する実践研究
黒川 俊文 教授	学校改善・授業改善・学級経営・校内研修に関する実践的な研究
白石 牧恵 准教授	学校改善・授業改善（国語科）に関する実践的研究
田村 靖二 教授	学校組織マネジメント、教育法規、生徒指導、教育相談等を視点とする学校力及び教師力の向上に関する実践的研究
西村 佳子 教授	幼児教育・保育に関する実践的な研究
畑 稔彦 准教授	学校改善・授業改善（算数・数学科）に関する実践的研究
細谷亜紀子 教授	特別支援教育に関する実践的研究

※交流人事・新規採用などにより来年度変更や追加がある場合があります。

》 在学院生インタビュー



》 学校経営力開発コース

現職教員学生 菱 沼 由 美

教職大学院の授業は、理論と実践を組み合わせることで学習を積み、教育の専門家として素養を身につけることができます。日々の学校教育活動で自分自身が疑問に思ったこと、迷っていたことなども教職大学院の学びの中で、気づきや解決策が見えてきます。

仲間と新しい出会いがあり、共に滋賀の教育を考えています。今年度は2回生になり、現任校に戻りつつ、多くの先生方に学びを広げ、支えながら、研修を続けています。

》 教育実践力開発コース

現職教員学生 佐々木 咲 絵

教員になって10年以上。現場では目の前のことを優先し、振り返ったりじっくり考えたりすることを後回しにすることもありました。教職大学院では、講義や演習、実習を通して今までの経験を振り返り、新たな知識と結び付けることで、学びを深めることができます。そして、現職教員や学部新卒学生から刺激をもらい、視野を広げることができるのも教職大学院だからこそできる学びではないかと思っています。

1つ1つの学びを大切に、教員として成長できるよう、研鑽を深めていきたいと思っています。



》 教育実践力開発コース

学部新卒学生 中 川 陽 香

教職大学院では、様々な視点で多くのことを学ぶことができます。私は中学校の英語科の教師を目指して学んでいます。特にヨーロッパ共通言語共通参照枠（CEFR）を生かした指導と評価のありかたについて実践的な研究を進めています。また、現職の先生方と学ぶことができるので、実際の学校現場のお話を聞くことができたり、アドバイスをいただけたりすることができます。とりわけ実習でお世話になっている能登川中学校の先生方には、同じ大学院で学ぶ現職教員学生の先生を始めとして、多くの先生方にお世話になっています。

毎日勉強になることが多く、とても貴重な経験だと考えています。教職大学院で学ぶことにより、自分が目指す教員像に近づいていることを実感しながらさらに頑張っています。

》 教育実践力開発コース

学部新卒学生 伊 藤 亮 介

教職大学院では小中の様々な専門を持つ現職の先生方と共に授業を受けることができるため、学部生の時とは違った視点で教育について学べます。同じ環境で学ぶことで、現場の声を聞いたり専門の知識を高めたりでき、自分の描く教師像をより具体化していくことができます。

また、大学の講義で学んだことを実習等で生かす理論と実践の往還によって、学びを深めることができるため、教職大学院での学びを通して教師としての資質を高めていきたいです。



■ 学生生活の一コマ

教職大学院演習室での授業の様子



海外連携校実習（台湾）



海外連携校実習（タイ）



学生控室



連携協力校での実習風景（学部新卒学生）



》 修了生メッセージ



令和元年度学校経営力開発コース修了生

守山市立守山小学校 教頭 大 崎 寿

教職大学院で、私の教職人生の大きな分岐点となる、貴重な時間を過ごすことができました。この職について以来、現場のみで実践を積んできた私にとって、外から学校教育を見る経験、研究論文に触れる経験はとても新鮮でした。研究者教員、実務家教員の先生方が与えてくださった、学びの視点やアドバイスは私のこれまでの教育観・学校経営観を大きく広げ、深めるものでした。

仲間との出会いも素晴らしいものでした。同じ現職教員の先生方の経験に裏付けされた考えと学部新卒学生（ストレートマスター）の新しく柔軟な発想が授業の中で融合し、驚くような学習の成果が表れたことも少なくありません。また、教育やこれからの生き方について語り合ったこと、楽しいイベントを行ったことも忘れられない思い出です。いつまでも大切にしたいつながりです。

今年度、管理職としての1年目がスタートしました。多くの複雑な課題を抱え、毎日過ごしていますが、学力向上・危機管理・人材育成・外部折衝等、あのときの学びを生かし、子どもたち、教職員の仲間とともに元気な学校をつくっていきたいと思います。



令和元年度教育実践力開発コース修了生

長浜市立西中学校 教諭 吉 川 健 太

私にとって、教職大学院での2年間は教師生活を送る上で欠かせない期間だったと感じています。大学院の先生方、現職の先生方、同じ志を持つストレートマスター。皆さんとの出会いと学びはかけがえのない財産となりました。現場に出る前に多くの経験を積めたこと、現職の先生方の近くで学べたことは本当に良かったです。

実際に教師となり、教職大学院での経験すべてが現場で通用するかといえばそうではありません。環境や人も変わるので当然だと思います。しかし、教職大学院での経験があったからこそ、こうして毎日乗り越えられているのだと思います。少し落ち込むようなことがあった時にも、「今自分がこうしてもがいている中、仲間も同じように懸命にもがいているはずだ。頑張ろう。」と仲間の存在が自分を奮い立たせてくれました。

現在私は1年生の担任をしています。学級経営や授業など試行錯誤の繰り返しですが、「生徒と一緒に楽しむ」ことを大切に、新鮮で濃い日々を送っています。これからも元気に学校や生徒のために頑張っていきたいです。



》 令和元年度修了生の教育実践課題解決研究報告書題目一覧

■ 学校経営力開発コース

現職教員学生

- 元気な学校をつくる！教職員も主体的・協働的に参画する学校経営
－ミドルが活躍し、若手教職員が自律的に学び続ける OJT 活動の創出－
- 子供の力で成長を続ける学校づくり
－学校文化の発展を支えるもの－
- カリキュラム・マネジメントで教職員の協働を生む
- 学校活性化にむけた学校評価の在り方
- 「チームとしての学校」における学校事務職員との協働
－『だいひがスタンダード』の作成・活用を通して－
- 授業改善を核とした学校改革
－教員のモチベーションを高める方策を軸として－

■ 教育実践力開発コース

現職教員学生

- 数学的な見方・考え方を働かせて、考えたり説明したりする力を育成する授業づくり
- 同僚性が高まる校内研究の実践的研究
－学年教師集団によるカンファレンスの連環を中心に－
- 中学理科における生徒の「深い学び」を保障する授業モデルの開発とそれを活かした授業改善の手法
－若手教員の授業改善に向けたアクション・リサーチを通して－
- つけたい力を意識化した授業と評価の在り方について
－パフォーマンス評価とそのループリック作成を通して－
- 生徒指導における教育相談的機能を高める方策
－「おはなしカード」を使った実践を通して－
- 教員間の連携・協働につなげる総合的な学習の時間の実践的研究
－教育的資源として活かされる地域の魅力や課題－

■ 教育実践力開発コース

学部新卒学生

- 話すこと・聞くことの学習を通して対話力を高める授業の探求
－主体的・対話的で深い学びの実現を目指して－
- 児童が「わかる・できる」理科授業づくり
－授業のユニバーサルデザインの手法を用いて－
- 「考え、議論する道徳」に関する実践的研究
－学習ツールを活用して－
- 特別支援学級における教育活動に関する一考察
－抽出児 A 児との関わりを通して－
- 学級経営における初任者教員の困難さの分析と改善方策の提案
- 小学校通常学級におけるユニバーサルデザイン (UD) の視点を取り入れた授業づくり
－一人の困り感を抱える子どもの姿から、道徳の授業を通して－
- 英語史を活用した中学校英語科の文法教材の開発とその実践
- 生徒が参加・理解することができる社会科授業のデザイン
－中学校社会科の授業実践を通して－

》 主な学生支援の制度

長期履修学生制度

長期履修学生制度は、職業を有している等のために標準の修業年限で修了することが困難な学生を対象としています。事情に応じて標準の修業年限（2年）を超えて一定の期間（3年または4年）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修学生として認められた場合の授業料は、2年間（標準の修業年限）分の授業料総額を、あらかじめ認められた一定の修業年限で除した額をそれぞれの年に支払うことになります。

教育職員免許状（一種）取得のための学部受講科目授業料免除制度

大学院教育学研究科に在学しながら、教育職員免許状（一種）を取得するために必要な学部の授業科目を履修する場合に、学部の授業科目の授業料が無料となります。1年間に履修できる単位は14単位以内です。

＜留意点＞

- 本学部の履修方法により、法定単位数より多く履修すべき授業科目及び単位がある場合があります。
- 一部の科目で履修が制限されている場合があります。（中学校「理科」「音楽」「美術」「技術」など、実験・実技系の必修科目について、人数制限や面談により受入不可となる場合があります）
- 免許状の取得及び履修の機会を保証するものではありません。

上記制度については、所定の手続のうえ認められますので、詳細は教育学部教務係（電話：077-537-7707）まで照会ください。

教員採用試験支援

学部生の教員採用試験支援に加えて、教職大学院の実務家教員を中心に模擬面接、模擬集団討論、模擬授業の指導と支援を行い、強力的にサポートします。令和元年度修了生は、8名全員が1回生または2回生時に合格し、正規教員として採用されました。

学費・奨学金等

日本学生支援機構給付・貸与奨学金や授業料免除制度、学生保険制度を整えています。詳しくは学生・就職支援係にお問い合わせください。

教職大学院説明会

第1回

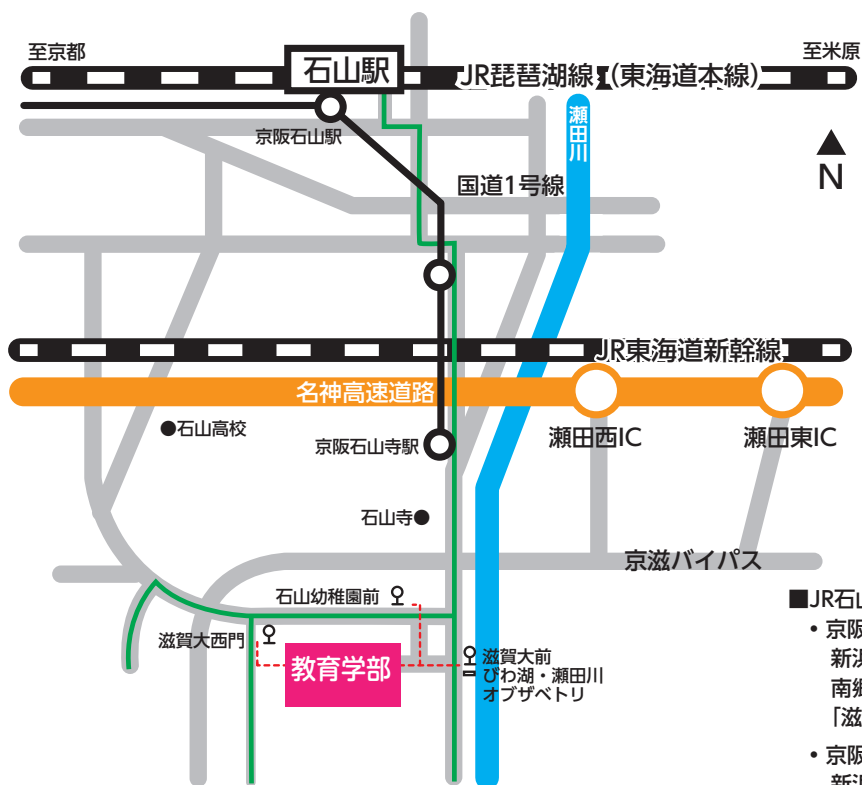
令和2年 9月27日(日)

🕒 13:30 ~ 15:30

📍 滋賀大学教育学部 研究棟1階 第1講義室

お問い合わせ先：滋賀大学大学院教育学研究科入学試験係

TEL : 077-537-7711



■名神高速道路をご利用の場合、
岐阜県、愛知県方面(下り)からお越しの時は、「瀬田東IC」をご利用ください。
京都府、大阪方面からお越しの時は「瀬田西IC」をご利用ください。

- JR石山駅より
- 京阪バス52・53・54系統
新浜(南郷中学校経由)行/大石(南郷中学校経由)行
南郷二丁目東(野々宮経由)行/南郷二丁目(千寿の郷経由)行
「滋賀大西門」下車 徒歩すぐ
 - 京阪バス2・4系統
新浜行・大石行「滋賀大前」下車 徒歩約7分
 - 京阪バス1系統
石山団地(石山寺経由)行「石山幼稚園」下車 徒歩10分
 - 滋賀大学行直行バス運行(土、日、祝日、休業期間は除く)



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学 大学院教育学研究科

〒520-0862 滋賀県大津市平津 2 丁目 5 - 1

滋賀大学教育学部・滋賀大学大学院教育学研究科 <https://www.edu.shiga-u.ac.jp/>
高度教職実践専攻(教職大学院) <https://www.edu.shiga-u.ac.jp/kyoshoku/>